

第9回6/16 (CS3年・荒井) ネットワークプランニング

ルータのシリアル接続とスタティックルート

※本資料は授業後(数日以内)にWEBで閲覧できるようにします※

2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

1

今日の予定

- Ciscoルータ設定の簡単なおさらい
 - 2-Etherlによるルーティング(サブネットでの例)
- 設定ファイルとリセット(※4.3)
- シリアルI/Fとその設定(※4.2)
- 2台のルータのシリアル接続
- スタティックルートの設定(概略)(※7.5)
- 演習: ネットワーク構築と設定と疎通確認
 - 3つのネットワークをシリアル接続した2600ルータ2台で構築(ネットワークはサブネットを利用)

2008/06/16

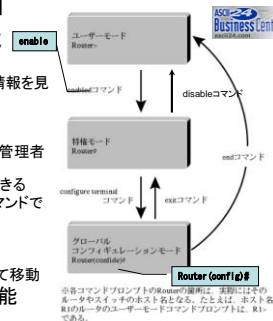
第9回ネットワークプランニング08(荒井)

2

IOSコマンド(※4.5:表4-8,図4-19)

【復習】

- IOSのコマンドは階層的な構成
 - ユーザモード
 - 最初の階層で、かなり限られた情報を見たり、簡単な操作しかできない
 - 設定情報は表示不可
 - 特権モード=イネーブルモード
 - これより深くは特権ユーザつまり管理者が使用
 - 通信状態、設定情報の確認ができる
 - ユーザモードから、「enable」コマンドで移動
 - コンフィグモード
 - 実際の設定を行う
 - 特権モードから、「config t」にて移動
- コマンドは省略、補完、Help可能



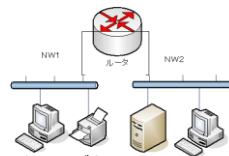
2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

3

2NW接続のルータ 設定【復習】

- 1900Router1台に2つのネットワークをFastEthernetで接続



- NW1: 192.168.16/24を16個にサブネット化し、2番目のサブネット
 - 16=2^4なので、本来(クラスC) 24bitがネットワーク部であったが、24+4=28bitをネットワーク部にする
 - サブネットマスク: /28 FF.FF.FF.F0 255.255.255.240
 - 2番目のサブネット 192.168.16.[0001]xxxx (①[0000], ②[0001], ③[0010]...)
 - IP範囲: 192.168.16.[0001]0000 – [0001]1111
 - ネットワークアドレス: 192.168.16.16
 - ブロードキャスト: 192.168.16.31
- NW2: 172.27.255/16を512個にサブネット化し、512番目のサブネットを利用
 - 512=2^9なので、本来(クラスB) 16bitがネットワーク部であったが、16+9=25bitをネットワーク部にする
 - サブネットマスク: /25 FF.FF.FF.80 255.255.255.128
 - 512番目のサブネット 172.27.[1111 1111].[1]xxx xxxx
 - IP範囲: 172.27.255.[1]000 0000 – [1]111 1111
 - ネットワークアドレス: 172.27.255.128
 - ブロードキャスト: 172.27.255.255

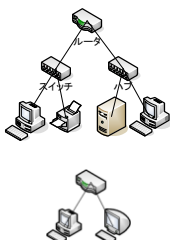
2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

4

2NW接続のルータ設定【復習】

- 機器構成とIPの設計
 - 機器構成の例としては右上図
 - 但しここでは簡単にするため右下図
 - IPは、ユーザ機器は小さな方から、NW機器は大きな方からとする
 - NW1: 192.168.16.16 /28
 - host=192.168.16.17 ~ /28
 - » Def-GWはルータに向ける
 - ルータ=192.168.16.30 /28
 - NW2: 172.27.255.128 /25
 - host=172.27.255.129 ~ /25
 - » Def-GWはルータに向ける
 - ルータ=172.27.255.254 /25



2008/06/16

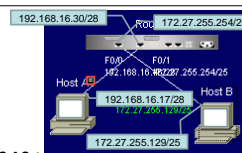
第9回ネットワークプランニング08(荒井)

5

2NW接続のルータ設定【復習】(p196)

- 1900Routerの設定
 - F0/0とF0/1の2ポートを有効化
 - これら2ポートに、IPアドレスとサブネットマスクを設定
- 特権モードへ「en」
- Configモードへ「conf t」
- I/F-confモードへ「int f0/0」
- ポートの有効化「no shutdown」
- ポートのIP設定「ip address 192.168.16.30 255.255.255.240」
- もう一つのポートも同じように「int f0/1」...

ルータF0/0: 192.168.16.30 255.255.255.240
(↑=Host-AのDef-GW)
Host A: 192.168.16.17 255.255.255.240
ルータF0/1: 172.27.255.254 255.255.255.128
(↑=Host-BのDef-GW)
Host B: 172.27.255.129 255.255.255.128



2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

6

2NW接続のルータ設定【復習】

疎通確認

- 一番簡単な接続例としてルータ(の各FastEthernetポート)にPC(ホスト)2台を直結し、IPアドレスとネットマスク、Default GWアドレスを設定
- 「ping」コマンドにより疎通確認

(Host-AからHost-Bへ)

C:\>ping 172.27.255.129

Pinging 172.27.255.129 with 32 bytes of data:

Reply from 172.27.255.129: bytes=32 time=22ms TTL=254

...

Ping Statistics for 172.27.255.129:

Packets Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),

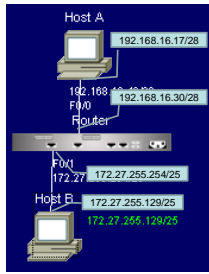
Approximate round trip times in milli-seconds:

Minimum = 22ms, Maximum = 23ms, Average = 22ms

2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

7



IPアドレスの設定について(補足)

Overlapエラーについて

- ルータは違うネットワークをつなぐものなので、同じネットワーク内のIPを両I/Fに設定しようとするとエラーとなる
 - × : f0/0/0に192.168.0.1/24, f0/1/1に192.168.0.2/24
 - × : f0/0/0に172.20.0.1/16, f0/1/1に172.20.255.254/16
 - : f0/0/0に192.168.0.1/26, f0/1/1に192.168.0.254/26

Bad maskエラーについて

- ルータのI/Fに、NWアドレスや、ブロードキャストアドレスをIPアドレスとして設定しようとするとエラーとなる

設定したIPアドレスを削除

- 「no ip address」(config-IFモード内)
- なお、削除しなくても、上書きすれば前の設定は消える
 - 但し上記のようにOverlap,Bad-maskなどのエラーになることも

2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

8

その他のIOSコマンド【復習】

- ルータに設定されている全情報の確認(p189)
 - 「show running-config」コマンド(特権モード内)
- 各I/F情報の確認(p197)
 - 「show ip interface」(特権モード内)
 - 「show ip interface brief」とすると確認がしやすい[New]
- ルーティング情報の確認
 - 「show ip route」(特権モード内)
- ルータに名前を付ける (p188)
 - 「hostname [名前]」コマンド(コンフィグモード内)
- I/F説明文設定 [New]
 - 「description [説明]」コマンド(config-IFモード内)

2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

9

設定・ファイルとリセット(※4.3;p173,4.5)

設定の保存

- copy running-config startup-config
- これをしないと設定した情報は、電源をOffするとなくなる
 - これらは実際にはファイルとして管理されている
 - 電源を入れたと、「startup-config」が「running-config」にコピーされ、この設定情報で動作する

設定のリセット

- erase startup-config → reload
 - reloadの代わりに電源をOff/Onしてもよい
 - reloadは「startup-config」を読み込んで動作しなおす

2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

10

ネットワークケーブル

- LANのケーブル接続
 - LANを構成する際のケーブル
 - 代表例; UTP(以前作成したケーブル), 光ファイバ
- WANのケーブル接続
 - WANと接続する際に必要となるケーブル
- コンソール接続
 - ネットワーク機器の設定などの際に必要となるケーブル

2008/05/16

第5回ネットワークプランニング(荒井)08

11

WANのケーブル接続

- WANでは遠隔地と通信する必要があり、通信事業者などから提供を受ける
- 通信事業者では、DCE(データ通信装置)を設置し、ユーザ側で準備するDTE(データ端末装置)を接続する。
- DCEとDTE間の接続には、通常RS232CやX.21などシリアルケーブルを利用

2008/05/16

第5回ネットワークプランニング(荒井)08

12

コンソール接続

- スイッチやルータなどのネットワーク機器を設定などする際には、機器に直接PCなどを接続する。
 - 機器には、キーボードやモニターがないため
 - 勿論設定前はネットワークにも接続されていないため、リポートでの設定も不可能
- 機器のコンソールポートとコンピュータのCOMポートを接続
- このケーブルを、ロールオーバーケーブルと呼ぶ
 - RJ-45コネクタが一般的で、UTPと間違えないこと

2008/05/16

第5回ネットワークプランニング08(荒井)08

13

シリアルインタフェース

(※4.2、9.1;p458)

- Cisco 1900ルータは、2 × ether + 2 × シリアル
 - シリアルは主にWAN接続で利用
- シリアルケーブルにはDCEとDTEがある
 - DCE(回線終端装置):
 - 1秒間に何ビットデータをやり取りするか(bps)を設定 (p472)
 - 「clock rate 64000」(IF-conf内) [p472]
 - ここではbpsを64000とする
 - ※ 通常プロバイダ側がDCE
 - DTE(データ端末装置):
 - 通常ルータはDTEとして動作
 - ルータ同士をシリアルで接続する場合、どちらかをDCEとして動作させなければならない(どちらでも良い)

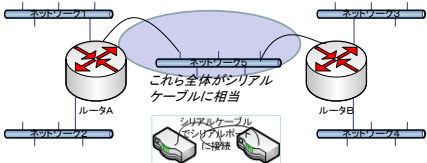
2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

14

ルータ同士のシリアル接続

- ルータを直結するといっても、論理的にはルータの間には一つのネットワークが存在
- よってこの場合、シリアルインタフェースにもIPアドレスを割り振らなければいけない



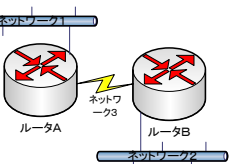
2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

15

スタティックルートの設定(※7.5)

- ネットワーク1とネットワーク3はルータAによってルーティングされている
 - ルータA上に、直接接続したNWについて、自動的にルーティングテーブルができています
 - しかしルータAは、ネットワーク2についての情報が全くなく、ネットワーク2宛てのパケットはルーティングできない
 - 同様にルータBはネットワーク1を知らない
- ※p351の例もよく理解しておくこと
- ip route NW subnet nexthop (confモード内)



ルーティングテーブルの確認
・「show ip route」コマンド
(特権モード内)

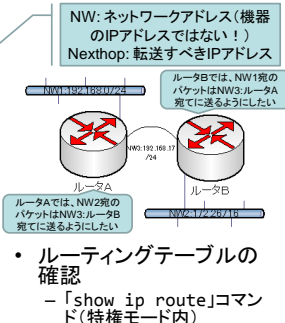
2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

16

スタティックルートの設定(※7.5;p350)

- ルーティング情報の設定
 - ip route NW subnet nexthop (confモード内)
 - 例: そのルータにおいて、172.26/16宛てのパケットは、転送すべき先のIPアドレス(通常アクセス可能な別のルータのI/F) 192.168.17.1宛てにルーティングさせる場合:
 - ip route 172.26.0.0 255.255.0.0 192.168.17.1
 - つまり、172.26/16はこのルータが知らない離れたネットワーク



- ルーティングテーブルの確認
 - 「show ip route」コマンド(特権モード内)

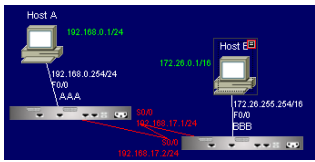
2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

17

ルータ同士のシリアル接続の構成

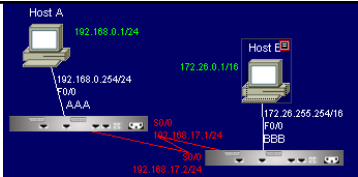
- IPアドレスの設計
 - ルータ間のNW: 192.168.17/24とする
 - シリアルI/FのIPアドレスは、
 - 192.168.17.1と 192.168.17.2とする
- ルータAのEther側NW: 192.168.0/24
 - ルータA-F0/0: 192.168.0.254
 - Host A: 192.168.0.1/24
- ルータBのEther側NW: 172.26/16
 - ルータB-F0/0: 172.26.255.254
 - Host A: 172.26.0.1/16
- ホストにはDef-GWも設定しよう



2008/06/16

第9回ネットワークプランニング08(荒井)

18



●ルータA(DCEとする)

- S0/0, F0/0のIPを設定し、有効化
- S0/0のclock rateを設定(DCE側だから)
- ip route 172.26.0.0 255.255.0.0 192.168.17.2
 - 「172.26/16宛は192.168.17.2に転送」するように設定

●ルータB(DTEとする)

- S0/0, F0/0のIPを設定し、有効化
- ip route 192.168.0.0 255.255.255.0 192.168.17.1
 - 「192.168.0/24宛は192.168.17.1に転送」するように設定

○ルーティングが設定されていなくても、たとえばHost-Aから192.168.17.2 (ルータB側のシリアルIF) まではping可能

2008/06/16 第9回ネットワークプランニング08(荒井) 19

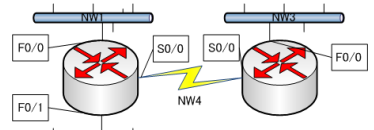
ルータのシリアル接続とスタティックルート(まとめ)

- 片方をDCEとし、clock rateを設定
 - 片方はDTEとなりclock rateは不要
- ルータ間も一つのネットワーク
 - シリアルポートもイーサポートと同様に、IPアドレスの設定、有効化を
- 各ルータにおいて、ルータが直結していないネットワークに対しては、スタティックルートを設定

2008/06/16 第9回ネットワークプランニング08(荒井) 20

●演習課題

- 3つのネットワークをルータ2台で接続
 - 2台のルータをシリアルで接続
 - 片方のルータAはFastEtherで2つのNW (NW1,NW2)を接続
 - ・ +シリアルでルータBと接続
 - もう片方のルータBは1つのFastEtherで1つのNW (NW3)を接続
 - ・ +シリアルでルータAと接続
 - ルータ間をNW4とする
- 3つのEtherネットワークにはホスト1台のみを直結



論理的なネットワーク構成

2008/06/16 第9回ネットワークプランニング08(荒井) 21

●演習課題

先週の課題Bの続きでも可能

- ネットワークの構成

* ルータA

- NW1: 192.168.16 /24を16個にサブネット化し、2番目のサブネットを利用
- NW2: 172.27 /16を512個にサブネット化し、512番目のサブネットを利用

* ルータB

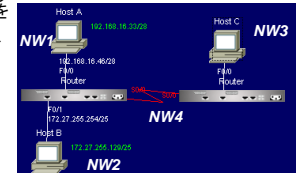
- NW3: 192.168.0 /24

* ルータAとルータBの間

- NW4: 192.168.255.0/30
 - 1クラスC(/24)をサブネット化して/30にし、その2番目という意味
 - DCE/DTEはどちらでもOK

* ホストは小さなIP、ルータは大きなIPから割り振る

具体的なネットワーク構成例
※但しIPなどは違ってはいます



全て設定し、疎通確認も行うこと！
★提出：上記ネットワークを保存してファイル提出
・ファイル名は「学籍番号-0616」とし、ネットワークドライブに提出

2008/06/16 第9回ネットワークプランニング08(荒井) 22

今日のまとめ

- □Ciscoルータ設定の簡単なおさらい
 - 2-Etherによるルーティング(サブネットでの例)
- ○設定ファイルとリセット
- ○シリアルI/Fとその設定
- ○2台のルータのシリアル接続
- ○スタティックルートの設定
- ●演習：ネットワーク構築と設定と疎通確認
 - 3つのネットワークをシリアル接続した2600ルータ2台で構築(ネットワークはサブネットを利用)

★宿題

- ・演習課題が完成していない人は必ず完成させておこう
- ・今日までの内容に不安がないように、きちんと復習しておくこと。
- ・分からないところを分からないままにしておかないこと！

2008/06/16 第9回ネットワークプランニング08(荒井) 23